

漁業経済学会 短 信

【第58回大会の案内】

■ 開 催

場 所：東京海洋大学品川キャンパス 東京都港区港南4-5-7

事務局：工藤 貴史 (TEL&FAX 03-5463-0569 kudot@kaiyodai.ac.jp)

日 程：2011年5月27日～29日

5月27日（金）：全国理事会

5月28日（土）：一般報告・総会・懇親会

5月29日（日）：シンポジウム

■ 大会参加費

大会参加費：2,000円

懇親会費：4,000円

■ 参加申込方法

事前申し込み制とする。第119号（4月末までに発送予定）に、振り込み用紙を同封します。参加費、懇親会費を納入してください。当日受付もいたしますが、事務局の負担を軽減したいので、会員の皆様には事前申し込みへのご協力を宜しくお願いいたします。

■ 一般報告の受付

タイトル受付締切日：2011年4月14日（木）必着（締め切り厳守）

報告要旨受付締切日：2011年4月28日（木）必着（締め切り厳守）

提出先：東京海洋大学 工藤 貴史

〒108-8477 東京都港区港南4-5-7 東京海洋大学

TEL&FAX :03-5463-0569

E-mail : kudot@kaiyodai.ac.jp

提出方法：一般報告のタイトルおよび報告要旨は FAX や郵送でも構いませんが、できる限りメールで送付してください。

報告要旨の形式：1,600字以内。報告要旨には、タイトル、報告者の氏名と所属要旨を入れること。メールで提出する場合は、MS-Word、一太郎、テキストファイル等で原稿を作成し、添付ファイルで提出すること。郵送で提出する場合は、CDまたはフロッピーディスクでファイルを提出するか、B5サイズ1枚にプリントアウトした用紙を提出すること。

■ 学会賞候補者の推薦

学会賞候補者の推薦を募集しています。候補対象者名と理由を記して事務局（工藤）までお送り下さい。お送り頂いたものは学会賞選考委員会に提出します。

学会賞選考委員会：加瀬和俊（代表理事）、宮澤晴彦、佐野雅昭、
若林良和、長谷川健二、田坂行男、三輪千年

【第58回大会シンポジウムテーマの案内】

『水産加工産業の展開方向と産地再編』

コーディネーター：中央水産研究所 田坂行男

9月11日、東京海洋大学で開催された常任理事会において、来年のシンポジウムテーマとして「水産加工産業の展開方向と産地再編」を提案しました。このテーマは、東京水産振興会が昨年度から3年の予定で実施している「構造再編下の水産加工業の現状と課題」の成果の一部を構成するものですが、振興会のご厚意で提案させていただき、協議の結果、シンポジウムテーマとすることが決定しました。シンポジウムで水産加工業に光を当てることは初めての試みですし、研究課題の一つとして水産加工産業に接近している学会員もあまり多くないのが現状ですが、かたや浜では浜値向上対策の一環として付加価値の形成方法や新たな販路開拓に対する関心は非常に強いものがあります。その「要」の一つが水産加工産業である現実を直視すれば、学会として水産加工産業研究を疎かに出来ないという問題意識が持たれるべきではないでしょうか。

歴史的に整理すれば、水産加工業は地元で水揚げされる水産物を主たる原料とすることにより、国民の淡白供給において重要な役割を果たす一方、水揚げ量と鮮魚需要のアンバランスを調整し、産地価格を下支える機能を有してきました。しかしながら、近年はわが国周辺海域での水産資源の不安定さの増大に伴う国内原料調達環境が変化する一方、国内消費構造の変化や小売量販店主導の国内チャネルと価格形成が進行しており、水産加工業の経営環境は大きく変化しています。

このような中であって、青物類を主原料として発展してきた大規模加工産地や旺盛な地

元水揚げ量に対応した産地では、冷凍冷蔵倉庫の集積が進むとともに輸入原料確保体制、さらには輸出市場の拡大を視野に入れた商品供給体制の強化が図られるなど、急速な再編が進みつつあります。そこでは、大手水産資本の経済活動が主導的役割を果たしており、今日の大規模水産地域の動向を大きく規定しています。また、一部系統団体においては積極的に加工事業を展開しており、伝統的水産加工セクターとは異なる新たな水産加工セクターとして市場形成に影響を与えつつあります。

このシンポジウムでは、上記のような状況にある大型水産加工産地を対象として、地域の中核として機能としている大手水産加工会社や企業グループ、及び系統団体による加工事業の今日的状況を生産関係、生産技術、市場形成などの視点から整理するとともに、これからの水産加工産地の発展・再編方向、今後の漁獲・水揚げ行動との関係等に着目しつつ、これからの水産加工産業研究の端緒にしていければと考えています。シンポジウムへの積極的な参加をお願いいたします。

【編集委員会便り】

■ 投稿論文の受付

第55巻2号に掲載予定の論文投稿を受け付けます。提出期限は1月20日でございます。沢山の投稿をお待ちしております。論文作成の際は、第54巻3号に記載されている【投稿規定】の執筆要領をよく読んでください。

■ 編集スケジュール（再掲載）

すでにご案内の通り、前回の総会より、新たな編集委員会体制となりました。年2号発行（昨年までは3号発行）、投稿期日の固定化という方式になっております。編集スケジュールについて改めて記しておきます。

『漁業経済研究』編集スケジュール

発行号	1号	2号	備考
原稿投稿締め切り	7月20日	1月20日	
編集委員会開催（在京）	7月末	1月末	編集委員会において担当者 と査読者を決定し、査読者 に依頼する
査読	査読者は査読基準に従い評価する。		
査読結果回収	8月末	2月末	
編集委員会開催（在京）	9月初旬	3月初旬	編集委員会で判定。
審査結果送付			掲載不可の場合は再投稿を 促し、掲載可の場合は入稿。 要修正の場合は修正を 要求。
原稿修正	修正を求められた投稿者は原稿を修正し、期 日までに再提出する。		
修正稿提出締め切り	10月末	4月末	最終稿を受け取る
編集委員会開催（在京）	11月初旬	5月初旬	掲載可の場合は入稿。掲載 不可の場合は再投稿を促 す。
印刷会社との編集作業	ゲラ稿修正	ゲラ稿修正	
発行	1月中旬	6月発行	

■ 『漁業経済研究』の体裁リニューアル予定のお知らせ

年3号から年2号発行という編集体制の変更に伴い『漁業経済研究』の体裁もリニューアルせざるを得なくなりました。厳しい財政の中での改訂ですから、コスト節減を達成しながらリニューアルをしなくてはなりません。例えば、コスト削減、環境対策といった視点からの表紙の紙質（現在はコーティングされた高価なものを使用）の変更、分厚くならないように段組を改めるなどの変更が必要になります。

言うまでもなく、会誌体裁の改訂作業は現在の編集委員会が行わなくてはなりません。つきましては、このことについて、どうかご理解頂くようお願い申し上げます。ご意見がございましたら、編集総務（濱田武士：bqx11300@kaiyodai.ac.jp, 03-5463-0566）にご連絡ください。

【意見】

学会は会則という一定のルールに従って運営されている。しかし、規則やルールは極力少ない方がよい。面倒な事務運営や編集を任されている担当者に任される範囲には幅があった方が、担当者の自主性が保たれ、また、臨機応変な対応ができるからである。

ただし、緩やかな制度で学会組織を運営していくには、モラルハザードを起こさないために、会員間の強い信用・信頼関係が必要である。我が学会は、大ざっぱな制度に基づいて運営されてきた。信用関係がしっかりとしていたのであろう。

だが、2010年を振り返ってみると、このことを巡る健全性に“赤信号”が灯っていたことが分かった。編集委員会の事務局体制が長い間「杜撰」にされてきたことが発覚したからだ。2010年度になり、編集委員会こそ新体制となったが、以前の問題が清算されまではまだ時間を要する。同時に、学会に対する信用を取り戻すまでも時間を要する。それにしても残念なことばかり起こった年だった。（濱田武士）

【訃報】 監事として本学会のために永く御尽力下さいました米田一二三氏は、12月10日、逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

学会短信 No. 119

2010.12.14

漁業経済学会事務局（総務：工藤 貴史）

〒108-8477 東京都港区港南4-5-7

東京海洋大学内

TEL & FAX 03-5463-0569

e-mail kudot@kaiyodai.ac.jp